

様式2 令和4年度 清瀬市立清瀬第四小学校 学校評価表

学校教育目標	◆すなおな明るい元気な子 ◆よく考えやりぬく子 ◆なかよく力をあわせる子 ◆自然に親しむ子	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	
目指す学校像(ビジョン)			
【目指す学校像】	◆よくわく感のある学校 ◆安心感のある学校 ◆達成感のある学校		
【目指す児童像】	◆よく聞き、よく考え、よく話し、よく書く児童 ◆あいさつ・返事・言葉づかい・整理整頓ができる児童 ◆仲間を励ます児童		
【目指す教師像】	◆いじめに敏感な教師 ◆児童の思いや願いを引き出せる教師 ◆保護者の思いを受け止める教師 ◆最後まで見届け、励ます教師		
前年度までの学校経営上の成果と課題			

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価	成果・課題及び次年度以降の改善方策(案)		
		取組指標	成果指標	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	児童全員が各学年の国語教科書をすらすらと音読したり、東京ベシクドリルの活用を図ったりする。	3.5	3.2	音読は繰り返すことにより、大きな声も出せるようになり、自信にもつながる。家庭でもやってもらいたい。 ・つまづきやすいところを「東京ベシクドリル」で補うことは効果的だと感じた。	一人一台端末の活用を発達段階に応じた体系的なスキルの習得と活用を目指し、個別最適化を図る。 東京ベシクドリルを算数だけでなく国語も活用し、学ぶ意欲と学力の向上を図る。
	読書貯金シートの記録や詩や俳句暗唱、スピーチ等の活動を実施する。	3.7	3.6	俳句や詩の暗唱は、とてもよい取り組みだと思う。将来必ず役に立ちます。 ・読書については、長年の懸念です。工夫した取り組みを今後もお願したい。高学年の児童が低学年の子に読み聞かせをするものいいと思う。	音読・暗唱・読書・スピーチ等の語彙を豊かにする活動の定着とともに、さらに活動のバリエーションを増やしていく。 アクティブラーニングの中で、言語力を高める取り組みをしていく。
豊かな心の育成	にこにこ班(縦割り班)活動を生かしたボランティア活動を実施する。	3.5	3.4	代表委員を中心に計画し、縦割り班での活動は概ねできていた。縦のつながりをつくることでさらに社会性を豊かにしていきたい。3学期になり、縦割り班ごとに「あいさつ当番」の活動をしている。挨拶運動は、ボランティアの始まりと捉え、その気持ちで今後の具体的な活動を計画・実践させたい。	四小児童はよく挨拶をしてくれます。 ときどき言葉づかいがひどい子が目立つのが気になります。 ボランティア活動を縦割り班として結びつけるのであれば、年間を通しての計画が必要だと感じる。
	ふれあい(いじめ)アンケートを定期的に実施し、実態を把握する。	3.5	3.7	当初学期1回であったのを、2学期以降は、2が月に1回の実施とした。調査後の聞き取りを丁寧に、軽微ないじめをピックアップして対応できた。今後、実施時期の期間を児童に事前に知らせ、自分のことや周りの人たちのことを見たり考えたりする余裕をもたせて実施していきたい。	学級担任によって「軽微ないじめ」に対する対応が異なるように感じる。担任だけに負荷がかからないように、学校全体としてサポートが大切だと感じる。 アンケートをもとにさらに注視する体制を。
健やかな体の育成	体育授業での運動量を20分間以上を確保する。	3.9	4	体育授業は、15分～20分程度の運動量は確保できていた。道具の準備片付けを効率よくすることは課題である。マッスルデーを12月から実施し、運動する楽しさを広げていた。今後さらに運動種目を増やすことも検討したい。	体を動かす機会を設けることはとても大切。 休み時間には外に出て遊んでいる姿を見かける。ぜひこのような取り組みを継続してほしい。
	学期に1回以上朝食調査を実施して朝食をとって登校したり、自分のもらった給食を粘りよく残さず食べたりする児童を増やす。	3.6	3.9	各学級で、給食の配食は「児童のオーダーメイド型」を重視。児童は自分で決めてもらった分量は粘り強く食べるようになってきた。完食する児童が増えた。全校の残食率もグンと減った。食べ残しの児童へはさらに丁寧に、無理のないように励ましていく。学期始めの「健康大作戦」も効果的であった。	四小の給食はおいしいという評判。感謝の気持ちをもって残食率を減らしてほしい。 「完食」が増えたのはとてもいいこと。フードロス問題を考えるきっかけになってくれればと思う。
特別支援教育の充実	各教室で、ユニバーサルデザインの実践をチェックリストをもとに増やしていく。	3.6	3.5	どの児童も学びやすい環境づくりとして「ユニバーサルデザイン」の項目を設定し、その一つを意識した学級経営が展開された。全学級が、全ての項目をクリアすることが課題であり、そのためには、その実践の良さを教員間で交流する場を定期的に設定していく。	ユニバーサルデザインの項目をクリアすることでどのような効果が児童にもたらされるのか、それが明らかになるとより一層意味のあるものになると思う。
	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の向上を図る。全教職員が研究授業を1回以上行う。	3.9	3.8	年間、3回以上の授業観察を管理職が行い、そのたびに、ユニバーサルデザイン化を意図した授業づくりが進んできている。課題は、教員間の授業実践交流によって、日常的によりよい授業づくりが定着していくことである。今後保護者にもその視点を共有して授業参観	学校全体で取り組むことで、より一層士気が上がるのではないかなと思う。
本校の特色	近隣の自然(せせらぎ公園等)を積極的に活用して体験活動及び栽培活動を行う。	3.8	3.8	学校の特色として、理科支援員による強力なバックアップもあり、地域の特徴を生かして、理科・総合・生活科等の授業において、体験学習が充実できた。さらによりよい計画をたてて実践していきたい。	川づくり清瀬の会としても引き続きサポートします。 この環境を生かし引き続き特徴のある授業をやってほしい。
	ホームページの充実を図るために、Webページの更新を毎日行う。	4	4	学校の様子を保護者や地域の方に発信することを大事にしてきた。信頼される学校を目指して、さらに継続できるようにしてきた。	学校のことを知る情報源なので、ぜひ更新を続けてほしい。 「四小なう」がいくつもに分かれているのが、見づらい印象がある。